

# 「都心の災害を考えるワークショップ実施と 展覧会の開催」プロジェクト

代表者 橋田規子【教授】（デザイン工学部 デザイン工学科）

構成員 橋田規子【教授】、吉武良治【教授】、梁元碩【准教授】（デザイン工学部 デザイン工学科）

## プロジェクトの概要

### ■都心の防災を学生が考える

2011年に東日本大震災が起き、既に6年が経った。当時は地震災害の恐ろしさを目の当たりにし、多くの人が災害対応の重要性を理解した。しかしながら、時が経つにつれて人々はそれらを忘れかけている。避難袋や避難経路を確認するなどの身近なことでさえしていない人が多い。都会には地震以外にも、ゲリラ豪雨や、密集地の火災、思わぬ大雪など災害が多く潜んでいる。このプロジェクトでは、大きな災害を体験していない、学生自身が災害について調査し、その対策や減災方法を考えることで、防災意識を高めることができる。こうした若い世代が災害の対応を習得することで、現実に災害が起きた場合には、何らかの形で地域に貢献できるのではないかと考える。

## COC活動の成果

### 【教育】

#### ○都心部の災害を考えるワークショップの実施

- ・都市の災害とはどういうものか現状とその対策についてプロのデザイナーによるレクチャーを行った。昨年度は水害対策として、「土のう」に取り組んだが今年には分野を広げて取り組んだ。
- ・社会的な問題をデザイン的に解決するための、様々な方法を習得した。
- ・学生は、各自の提案を発表し、プロのデザイナーのアドバイスを受けて提案の精度を高めることができた。参加者学生10人および指導講師5人。

### 【研究】

#### ○都心部の災害を調査する。

- ・都市の災害について事実を探求し、目に見える形で表現する。「災害の時に困る事」でブレインストーミングを行いパネルにまとめた。
- ・調査結果から各自がテーマを絞り、災害対策のための提案を行う。
- ・提案を目に見える、分かりやすい形で展示するためのモデル製作、効果的なプレゼンテーションを研究した。

### 【地域貢献】

#### ○都心の災害を考える展覧会の開催

- ・上記の提案を研究成果として展覧会を開催し、地域の方々へ災害の対策など考える機会を提供した。2018年1月15日から1月19日に開催。
- ※港区芝浦港南地区総合支所が「防災とボランティア週間」に併せて開催する防災展と連携して、昨年度より港区施設内で開催。
- ・学生自身が説明員として会場に立ち、地域住民とコミュニケーションをとることができ、様々な感想を頂いた。
- ・来場者は総計200人を目標としたが、実際には400人となり、大幅に目標を上回る事ができた。
- ※2017年1月の展覧会を知った都立木場公園の関係者より、木場公園でも展示をしてほしいとオファーがあった。2017年9月5日～10日木場ミドリウム展示スペースにて開催。土日の公園イベントなどもあり、来場者は2000人を超えた。



【展示風景】みなとパーク芝浦での展覧会



【展示作品】避難所での役割分担表示バンダナ



【作品事例】木場ミドリウム展示スペースでの展示  
親子づれが多く特に「どのげー」が大人気であった

## 主なトピックス

## 研究成果(展覧会の作品)

## 災害前における提案



## 【D-Preparation】吉村匡平

災害認識スマホアプリケーションの提案。避難経路を示すだけでなく、実際に災害が起こった時の風景をバーチャルに表示して、自分の周辺360度注意をしなければならない状況を事前に知ることができる。



## 【非常書9】嶋田祥之

非常食は、丸缶やレトルトパウチ、箱型と様々な形でかさばり見栄えも悪く押し入れの奥にしまって忘れがち。身近な本棚にきれいに入る本型にすることによって災害時あわてずに持ち出せ、また賞味期限のチェックも忘れぬ。



## 【いっしょに避難シート】榎本裕理

災害時、避難所に何を携っていけばよいかかわからない。多くの人にとって身近で大きな布であるベッドシートを用い、持ち出す物の絵を印刷することにより、必要な持ち物を並べ、そのまま包んで持っていける。

## 避難時における提案



## 【ドクターバイク】石澤直也

消防用バイクは既にあるが、消火器や応急処置用の器具しか積むことができない。救急車では入っていけない山間部や瓦礫の山を乗り越えられるバイクに救助した人を後ろに乗せる取り付け椅子の提案。



## 【隠れhero】李丹丹

災害時、弱者になりがちな高齢者であるが、自分の持っているものが人の助けになると、前向きな気持ちになれるのではと考え、1つの杖が2本にわかれて貸すことができる、という提案に辿りついた。

## 避難所における提案



## 【だんぼるあいと】笹谷啓太

避難所では段ボール仕切りでプライバシーを確保する。しかし消灯時間で全空間が真っ暗となる。スリットの入ったこの照明は段ボールを固定すると同時に個々の空間に灯りをともし、心を落ち着かせる。

## 避難所における提案



## 【段ボールアーマー】海野一樹

冬の避難所は寒い。避難所に多く集まる物資の段ボールを使った、着る段ボールの作り方を提案した。子供は周りの人と作って、着て、遊び、体も温まると同時に、避難所の雰囲気も明るくできる。



## 【Ignite Mill】池田朋弘

避難所で暖を取るときにマッチやライターでは限界があり不安。マグネシウム棒を削って火をおこすメタルライターがあるが火花が大きく危険。より安全で恒久的に使える装置を提案した。



## 【うつわのおりがみ】梁取瑠

避難所では既成の紙皿やコップを使うことが常であるが、この提案は自分たちで器を作り、楽しむための折り紙セットである。することもなくストレスを抱えてしまうことを防げるのではないかと考えた。